



県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、原指数は9か月連続で前年を下回り、季節調整済指数は精密機械や窯業・土石などが前月に比べ上昇したため2か月連続のプラスとなっているものの伸び率は鈍化し、3か月移動平均値は4か月ぶりの微減となり横ばいで推移している。

需要面では、大型店売上高はウエートの高い食料品が再び前年を下回り、衣料品をはじめ家電機器や身の回り品でも伸び悩んだため、全店ベース、既存店ベースともに5か月連続の前年比マイナスとなり、マイナス幅も拡大している。また、前月、8か月ぶりにプラスに転じた乗用車の新車登録台数は再び前年を下回り、力強さに欠けた動きとなっている。一方、民間非居住用建築着工床面積でみた民間設備投資は商業用とサービス業用が前年を大きく上回り3業用計では2か月連続の大幅プラスとなり、新設住宅着工戸数も貸家と分譲マンションが伸び悩んだものの、持家と一戸建て分譲が好調に推移したため全体では4か月連続のプラスとなっている。また、公共工事は請負件数、金額ともに3か月連続で前年を上回っている。

このような状況下、雇用情勢を見ると、新規求人数が8か月連続の大幅プラス、一方、新規求職者数は3か月連続のマイナスとなったため、新規求人倍率は前月と同じ高水準を維持し、有効求人倍率も2か月連続で前月を上回った。しかし、水準は28か月連続で全国レベルを大きく下回っている。

これらの状況をまとめると、生産活動は回復に向けて動き出しているものの横ばいとどまり、需要面では民間設

備投資や住宅投資、公共投資に堅調な動きがみられるが、個人消費に引き続き厳しさが残り、伸び悩んでいるため、県内景気の現状は上向きつつあるものの、弱含みの状態にあるとみられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、引き続き堅調な情報機器関連や省エネ設備関連に加え、消費税率引き上げ前の駆け込み需要関連の内需は比較的堅調に推移し、中国などの新興国の景気には減速感がみられるものの、本格的な回復が期待される米国景気の復調を受け、電気機械や一般機械、輸送機械などの輸出関連が堅調に推移し、全体的に徐々に持ち直しの動きが広まるものと思われる。

需要面では、個人消費については、乗用車をはじめとする大型の耐久消費財が本格的な景気回復への期待感に加え、上記の駆け込み需要から上向きはじめてくると考えられるが、食料品や日用品などの最寄り品については円安に伴う値上げや光熱費の上昇などから節約志向が依然根強く、弱含みの推移にとどまるものと思われる。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では、投資マインドは徐々に改善に向かうものの、秋頃には上記の駆け込み需要の終息が想定されることにより、一転、伸び悩みが懸念される。

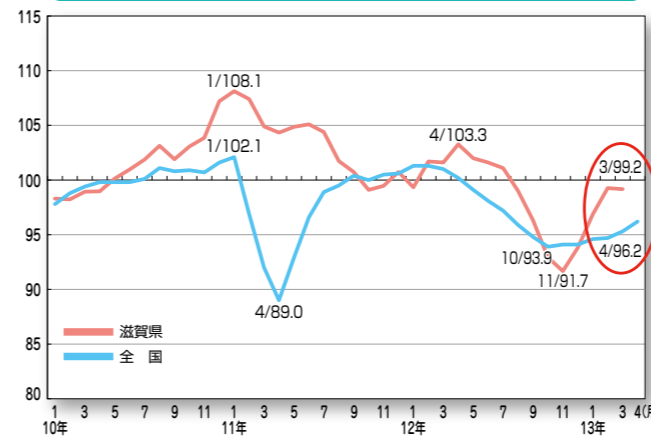
したがって、今後の県内景気は、生産活動においては徐々に持ち直しの動きが広まると思われるものの、安倍政権の「成長戦略」の実体経済への波及効果は限られ、需要面での回復に向けての動きも弱含みにとどまるため、全体的にはぜひ弱い持ち直しの動きが続くものと思われる。

「鉱工業生産指数」は、4か月ぶりの微減

2013年4月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が99.1、前年同月比-2.1%と、9か月連続で前年を下回り、「季節調整済指数」は99.9、前月比+0.3%で、前月に続きプラスとなっているものの伸び率は鈍化した。この結果、鉱工業全体の季節調整済指数の3か月移動平均値(3月)は99.2、前月比-0.1%で、4か月ぶりの微減となり横ばいで推移している。

業種別(中分類)に4月の季節調整済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「繊維」「その他」などは低いものの、「電気機械」や「精密機械」「窯業・土石」「化学」などは高水準が続いている。また、前月と比べると、「鉄鋼」と「金属製品」は大幅に低下したが、「精密機械」と「窯業・土石」は大幅に上昇した。

鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移(季節調整済値、滋賀県:2005年=100、全国:2010年=100)



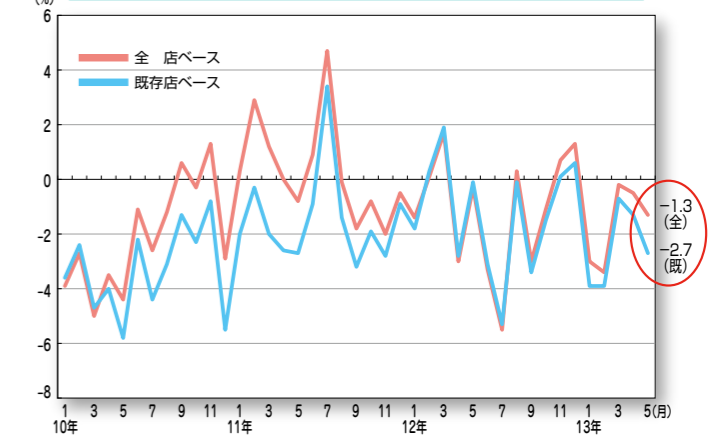
「大型店売上高」は、5か月連続の前年比減少で、減少幅も拡大

5月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は93店舗)」は前年同月比-1.3%で5か月連続のマイナスとなっている。品目別で見ると、「家庭用品」は再びプラスとなったものの(同+0.9%)、ウエートの高い「食料品」が再び前年を下回り(同-0.3%)、「衣料品」(同-7.2%)と「家電機器」(同-8.2%)はともに6か月連続、「身の回り品」(同-4.0%)も5か月連続のそれぞれマイナスとなっている。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も5か月連続で前年を下回り、マイナス幅も拡大している(同-0.7%→同-1.3%→同-2.7%)。

5月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が再び前年を下回り(1,270台、前年同月比-1.9%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も大幅のマイナスとなったため(1,131台、同-12.8%)、2車種合計では再びマイナスとなった(2,401台、同-7.4%)。今後の動向が注目され

る。また、「軽乗用車」は4か月連続の大幅マイナスとなっている(1,740台、同-16.5%)。ただ、前年同月の実績がエコカー補助金の効果で高いため大幅のマイナスとなったもので、水準自体は高い。

大型店売上高の推移(前年同月比)



「新設住宅着工戸数」は、4か月連続の前年比プラス

5月の「新設住宅着工戸数」は738戸、前年同月比+1.1%で、4か月連続のプラスとなっている。利用関係別で見ると、「持家」は449戸、同+17.8%で9か月連続かつ大幅のプラスとなり、好調に推移している。一方、「貸家」は131戸、同-20.6%で、4か月ぶりに前年を大きく下回った。「分譲住宅」も前月と同じ157戸、同-14.7%で、これも4か月ぶりの大幅マイナスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は7か月連続で前年を大きく上回っているものの(110戸、前年差+18戸)、「分譲マンション」は3か月ぶりに前年を下回った(47戸、同-45戸)。なお、給与住宅は1戸。

月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると(4月)、総戸数では842戸、同+22.2%で4か月連続の大幅プラスとなっている。利用関係別にみると、「持家」は8か月連続(429戸、同+15.0%)、「貸家」は4か月連続(239戸、同+30.6%)、「分譲住宅」も3か月連続の大幅プラスとなっている(171戸、同+30.5%)。

新設住宅着工戸数(利用関係別・3か月移動平均の前年同月比)

